



平成31年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年8月1日

上場会社名 寿スピリッツ株式会社  
コード番号 2222 URL <http://www.kotobukispirits.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河越 誠剛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画部長 (氏名) 松本 真司

TEL 0859-22-7477

四半期報告書提出予定日 平成30年8月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	8,601	8.6	829	55.1	835	52.4	510	△7.8
30年3月期第1四半期	7,919	17.8	535	43.6	547	43.1	553	196.5

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 516百万円 (△6.8%) 30年3月期第1四半期 553百万円 (265.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	16.39	—
30年3月期第1四半期	17.77	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第1四半期	21,540	14,898	69.2	478.74
30年3月期	22,276	15,471	69.5	497.16

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 14,898百万円 30年3月期 15,471百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	35.00	35.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期(予想)	—	0.00	—	35.00	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	18,600	8.0	2,230	20.6	2,250	20.3	1,470	1.4	47.24
通期	40,600	8.6	5,800	15.7	5,850	15.9	3,820	8.1	122.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

31年3月期1Q	31,121,520 株	30年3月期	31,121,520 株
31年3月期1Q	1,819 株	30年3月期	1,798 株
31年3月期1Q	31,119,712 株	30年3月期1Q	31,119,887 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(セグメント情報) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、堅調な企業の経営成績や雇用所得環境の改善を背景に、個人消費は持ち直しの動きが継続し、緩やかな景気回復基調で推移いたしました。一方で、お客様の消費活動の多様化が進み、また、業種・業態を超えた競争の激化や物流コストの上昇などにより、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社グループは、『超絶 WSR!! (※)』を2018年経営スローガンに掲げ、『超現場主義の徹底実践』を実践テーマに、お客様により一層喜んでいただける魅力溢れる商品及びサービスの提供に努めてまいりました。また、製造ライン、店舗、営業部門の現場中心の経営スタイルを一段と高め、商品力、販売力・営業力、売場力のレベルアップに引き続き注力してまいりました。更に、当面の重点施策であります「インバウンド対策の強化」、「海外展開」、「首都圏でのWSR化展開の推進」、「プレミアム・ギフトスイーツの創造と育成」の施策遂行に対処してまいりました。

これらの取り組みの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は8,601百万円（前年同期比8.6%増）、営業利益は829百万円（前年同期比55.1%増）、経常利益は835百万円（前年同期比52.4%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期は、特別利益に固定資産売却益の計上があったことに加え、税務上の繰越欠損金にかかる繰延税金資産の追加計上により税金費用が一時的に低かったため、当第1四半期連結累計期間の税金負担が前年同期に比べて増加した結果、510百万円（前年同期比7.8%減）となりました。

※ WSR（ダブルエスアール）とは、グループ経営基本方針として平成27年に掲げた経営スローガン『ワールド サプライジング リゾート (World Surprising Resort) 宣言』の略称であり、商品・店舗・接客・営業活動など、あらゆるビジネスのシーンで「世界へ、ありえないほどの驚きの、非日常（超感動）を提供する」という意味が込められています。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

#### ① ケイシイシイ

ケイシイシイは、本年6月で20周年を迎えた「小樽洋菓子舗ルタオ」において、20周年記念菓「ルコッタ」の発売開始やキャンペーン展開に注力いたしました。また、本年4月にルタオ本店前にフロマージュデニッシュ専門店「デニルタオ」を、本年6月には阪急うめだ本店にチーズクリームサンド専門店「Fuwa-Trois（フワトロワ）」をそれぞれオープンするなど、新ブランド展開にも取り組みました。売上面では、催事出店の見直しによる売上減少や生産移管によるグループ向け売上が減少した一方、道内店舗の好調やインバウンド対策として注力いたしております国際線ターミナル免税エリアでの売上が好調に推移いたしました。その結果、売上高は2,502百万円（前年同期比2.9%増）となり、営業利益は242百万円（前年同期比72.8%増）となりました。

#### ② シュクレイ

首都圏での多ブランド展開に注力しているシュクレイは、売上面では、「東京ミルクチーズ工場」、「ザ・メープルマニア」など主力ブランドでの季節限定商品の投入、販促強化などにより直営店及び催事並びに卸売などの販売チャネルにおいて軒並み好調に推移いたしました。また、直営店では、本年6月に東京・南青山に洋菓子のフランセ表参道本店を、新宿駅南口ニューマンの「Butter Butler（バターバター）」をそれぞれ移転リニューアルし、ブランド力の向上を図りました。その結果、売上高は2,717百万円（前年同期比21.4%増）、営業利益は260百万円（前年同期比151.2%増）となりました。

#### ③ 寿製菓・但馬寿

寿製菓・但馬寿は、グループ各社及び代理店との連携強化により、主力商品及び「サンドクッキー」などの新商品の育成に注力いたしました。売上面では、グループ全体における製造キャパシティ拡大の観点から、グループ向け製造売上の一部を他のグループ製造拠点に移管した影響により、グループ向け売上が減少いたしました。その結果、売上高は2,394百万円（前年同期比2.5%減）、営業利益は204百万円（前年同期比11.6%増）となりました。

#### ④ 販売子会社

販売子会社は、駅、空港、SA・PAなど交通拠点チャネルを中心に、主力商品及び新商品の売場拡大、リロケーションなどの提案営業の強化に注力いたしました。新規出店では、関西地区において本年4月にコンディトライ神戸「神戸マルイ店」をオープンいたしました。その結果、売上高は1,347百万円（前年同期比5.0%増）、営業利益は99百万円（前年同期比15.8%増）となりました。

⑤ 九十九島グループ

九十九島グループは、売上面では、新商品「フレンチトーストクッキー」を投入した「Ivorish（アイボリッシュ）」ブランドでの催事が堅調に推移した一方、大手テーマパーク向けOEM取引の中止の影響などにより全体では落ち込みました。生産面では「ラングドシャ」ラインの新設などを行い、販売面では本年6月に長崎空港内に新店舗「99スイーツアベニュー」を、東京・ららぽーと立川立飛に「Ivorish立川」をそれぞれオープンするなど、早期の経営成績回復に向けた取り組みを強化しました。その結果、売上高は695百万円（前年同期比9.3%減）、営業損失は95百万円（前年同期は営業損失77百万円）となりました。

⑥ その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾）における菓子事業が含まれており、売上高は61百万円（前年同期比34.3%減）となり、営業損失は20百万円（前年同期は営業損失11百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、21,540百万円となり、前連結会計年度末に比べ736百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金の減少（858百万円）、受取手形及び売掛金の減少（842百万円）、流動資産におけるその他の増加（341百万円）、機械装置及び運搬具（純額）の増加（270百万円）、建物及び構築物（純額）の増加（148百万円）、商品及び製品の増加（141百万円）などの要因によるものです。

負債は6,641百万円となり、前連結会計年度末に比べ163百万円減少いたしました。主な要因は、未払法人税等の減少（483百万円）、賞与引当金の減少（308百万円）、支払手形及び買掛金の減少（179百万円）、流動負債におけるその他の増加（990百万円）などの要因によるものです。

純資産は14,898百万円となり、前連結会計年度末に比べ573百万円減少いたしました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加（510百万円）、配当金の支払いによる減少（1,089百万円）などの要因によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.3ポイント減少の69.2%となり、1株当たり純資産は478円74銭となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想に関しましては、本資料発表日現在におきましては、第2四半期連結累計期間及び通期ともに前回公表数字（平成30年5月14日付「平成30年3月期決算短信」）からの変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,748,855	3,890,527
受取手形及び売掛金	4,130,407	3,287,787
商品及び製品	1,242,443	1,383,696
仕掛品	50,847	93,113
原材料及び貯蔵品	487,416	477,001
その他	269,810	611,590
貸倒引当金	△4,797	△4,474
流動資産合計	10,924,981	9,739,240
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,832,521	3,981,360
機械装置及び運搬具(純額)	2,141,289	2,411,317
工具、器具及び備品(純額)	388,399	409,387
土地	2,857,139	2,857,139
リース資産(純額)	5,243	4,593
建設仮勘定	90,552	37,755
有形固定資産合計	9,315,143	9,701,551
無形固定資産	113,800	162,703
投資その他の資産		
その他	1,934,295	1,947,992
貸倒引当金	△11,330	△11,330
投資その他の資産合計	1,922,965	1,936,662
固定資産合計	11,351,908	11,800,916
資産合計	22,276,889	21,540,156
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,199,279	1,020,136
1年内返済予定の長期借入金	260,396	240,396
未払金	1,165,732	1,028,572
未払法人税等	804,794	320,862
賞与引当金	709,200	400,230
ポイント引当金	13,879	11,862
その他	754,259	1,744,754
流動負債合計	4,907,539	4,766,812
固定負債		
長期借入金	432,746	372,647
退職給付に係る負債	1,284,195	1,323,043
その他	180,870	179,347
固定負債合計	1,897,811	1,875,037
負債合計	6,805,350	6,641,849

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	12,917,154	12,338,070
自己株式	△1,758	△1,866
株主資本合計	15,456,357	14,877,165
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	36,459	41,779
為替換算調整勘定	△6,698	△6,757
退職給付に係る調整累計額	△14,579	△13,880
その他の包括利益累計額合計	15,182	21,142
純資産合計	15,471,539	14,898,307
負債純資産合計	22,276,889	21,540,156

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	7,919,788	8,601,141
売上原価	3,603,984	3,761,123
売上総利益	4,315,804	4,840,018
販売費及び一般管理費	3,780,783	4,010,085
営業利益	535,021	829,933
営業外収益		
受取利息	198	212
受取配当金	2,524	3,427
受取地代家賃	4,703	4,669
その他	10,090	5,178
営業外収益合計	17,515	13,486
営業外費用		
支払利息	1,303	825
持分法による投資損失	635	2,397
その他	2,721	5,036
営業外費用合計	4,659	8,258
経常利益	547,877	835,161
特別利益		
固定資産売却益	75,191	259
特別利益合計	75,191	259
特別損失		
固定資産除却損	3,787	4,080
特別損失合計	3,787	4,080
税金等調整前四半期純利益	619,281	831,340
法人税等	66,278	321,234
四半期純利益	553,003	510,106
親会社株主に帰属する四半期純利益	553,003	510,106



(四半期連結包括利益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
四半期純利益	553,003	510,106
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,740	5,320
為替換算調整勘定	△3,716	△302
退職給付に係る調整額	△182	699
持分法適用会社に対する持分相当額	923	361
その他の包括利益合計	765	6,078
四半期包括利益	553,768	516,184
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	553,768	516,184

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	ケイシイシイ	シュクレイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	2,187,410	2,213,981	1,473,165	1,274,858	677,188	7,826,602
セグメント間の内部売上高又は振替高	243,306	24,583	982,891	8,274	88,881	1,347,935
計	2,430,716	2,238,564	2,456,056	1,283,132	766,069	9,174,537
セグメント利益(△は損失)	140,572	103,770	182,969	85,594	△77,976	434,929

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	93,186	7,919,788	—	7,919,788
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1,347,935	△1,347,935	—
計	93,186	9,267,723	△1,347,935	7,919,788
セグメント利益(△は損失)	△11,042	423,887	111,134	535,021

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額111,134千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額286,487千円、セグメント間取引消去額4,631千円、たな卸資産の調整額△2,176千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△177,808千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	ケイシイシイ	シュクレイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	2,348,205	2,686,772	1,572,197	1,341,875	590,895	8,539,944
セグメント間の内部 売上高又は振替高	153,853	31,039	821,856	5,264	104,229	1,116,241
計	2,502,058	2,717,811	2,394,053	1,347,139	695,124	9,656,185
セグメント利益 (△は損失)	242,922	260,699	204,271	99,127	△95,181	711,838

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	61,197	8,601,141	—	8,601,141
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	1,116,241	△1,116,241	—
計	61,197	9,717,382	△1,116,241	8,601,141
セグメント利益 (△は損失)	△20,335	691,503	138,430	829,933

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額138,430千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額299,370千円、セグメント間取引消去額6,599千円、たな卸資産の調整額1,588千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△169,127千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。